

おいでん・さんそんSHOW

3月号
2019.3.01発行



足助 あすけ 『暮らしに生かす 自然の力』 ～平成30年度いなかとまちのくるま座ミーティングを開催～

くるま座ミーティングでは、ゲストの話聞くだけでなく参加者同士が意見を出し合い、共に考えることを大事にしている(写真は、地域のエネルギーは自分たちでツクル!分科会の様子)

「産業革命でほとんどが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ



第1部オムニバスタークの様子

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「産業革命でほとんが機械に置き換わったグリーンウッドワークが1980年代からイギ

「他人かと比較する幸せなんていらぬ」。艶歌「愛のままで」の二節だが知らない人が多

いて考えている。人生の目標と「幸せな生涯を送ることに相違ないでは、幸せとは何か、誰が決めるのか。幸せは、自分の生きている意味が自覚でき、自分の存

在が他者に認められたときに感じられるようだ。つまり人は他者とのつながりのなかで幸せを認識する生き物といえる。しかし、それは人と比較することではない。優越によつて得られる喜びは「幸せ感」ではない。幸せ感とは長くは続かず、増やし続け、勝ち続けると消えてしまうのだ。

サシを見つけ、変えることができるのは自分自身だけだと思つた。幸福の国プータンの幸せの方程式を「幸せ=財÷欲望」とし、チベット仏教を背景として欲望を抑えることでプータン人は幸福度を高めていると評論する学者もいるが、そんな薄っぺらなものではないように思う。財と欲望の関係に幸せのモノサシを見つけてよつとするなら、それは、幸せの方程式にしかない。

リス、アメリカ、スウェーデンなどで再評価されています。日本にも、かつて岐阜県高山市の杓子や石川県我谷村(現在は存在しない)の我谷盆などのグリーンウッドワークがあり、消滅寸前でしたが、最近復活させた人がいます。一緒に講座を開催したところ、募集開始から30秒で30人の申込みがあり、びつくりしました」と話します。



センター長 鈴木辰吉

「馬の力」について、一般社団法人馬振興会代表理事の岩間敬さんが話しました。30歳で、スポーツの馬の世界から、馬を使った農林業の世界に転身した岩間さん。

現在、馬の力について、一般社団法人馬振興会代表理事の岩間敬さんが話しました。30歳で、スポーツの馬の世界から、馬を使った農林業の世界に転身した岩間さん。

現在、馬の力について、一般社団法人馬振興会代表理事の岩間敬さんが話しました。30歳で、スポーツの馬の世界から、馬を使った農林業の世界に転身した岩間さん。

イベント情報

このこ トンカン木工塾

足助・萩野地域に関わらず、移住計画をする家族と、地域の交流の場を目的とします。実現への「学び」プログラムから、移住へ向け「実践する力」を培います。木を使った「ものづくりの楽しさ」と、リフォームの基本を学びます。2019年度は、木工塾の建物の補強・改修工事を行い、リフォームの基本を実践的に学びます。プログラムには、楽しむを軸に遊び・交流・座学・空き家、空き地探検・移住計画があります。

- 期間 | 2019年4月～2020年2月(毎月1回、第4土日の2日間予定) 年10回
- 場所 | 豊田市川面町(足助地区/萩野学区) 怒田沢橋角「結の家」工房
- 年会費 | 大人一人3,000円 子ども一人500円(小学5年生以上) ※年間受講家族は、地域と専門家のサポートを受け、移住計画の実現プログラムに参加できます。
- 受講料 | 各回 一家族3,000円(月1回土、日の2日間)+材料費+イベント保険料※食事・交通費は自己負担です。※夏休み特別ゼミ参加の宿泊料は別途
- 主催 | ここ暮らっそプロジェクトチーム 萩野NPO「結の家」●協賛 | 萩野自治区
- 応募条件 | 将来、里山移住を考える家族、又はシングルマザー
- 面接期間 | 4月20日(土)～23日(火)
- 応募方法 | web応募フォームへ記入

アドレスは、こちら⇒<https://familygarden.businesscatalyst.com/index.html>

- 選考方法 | 応募内容を選考(一次)し、面接(二次)を実施。合格者にメールで連絡します。
- プログラム概要 | ①木を使ってものづくり、手作り②今の暮らしを見つめる。これからの生活の在り方を構想する③計画を実現する方法を探す④地域を知る、学ぶ、出会う
- 対象とする人 | 気付いたことを自らの暮らし方から始め、里山で実現してみたい人 季節のリズム、二十四節気を実感する暮らしを実現してみたい人
- 問合せ | my-house@asuke.aitai.ne.jp にメール送信ください。

講座メニュー

※受講される家族に合わせ、プログラムメニューを主催者側が計画します。

- 初心者プログラム | 子どもは親子で参加(地域の子もたちと一緒に夏、川辺で泳げます)、道具の使い方、棚づくり、野外テーブル、ベンチ、木の遊具づくり、筏づくり
- 中級者プログラム | 簡単なリフォーム、小屋づくり、ツリーハウスの共作、簡単な家具づくり、建築の構造の基礎を学ぶ
- 上級者プログラム | 棟梁から実践リフォームを学ぶ、材料について学ぶ、建物耐震について基礎を学ぶ
- 交流プログラム | 野外調理と川遊び宿泊体験、自然観察会(地域の子もたちと一緒に)、スウェーデントーチを楽しむ、萩野NPO「結の家」メンバーとの交流
- その他、週末ファーマープログラム、座学プログラム、空き家・空き地探検プログラム、移住計画の講座プログラムなど

「中山間地農業の未来像」がどうなっているかについて

分科会④「ヘンタイが中山間地農業を救う？」

「中山間地農業の未来像」がどうなっているかについて

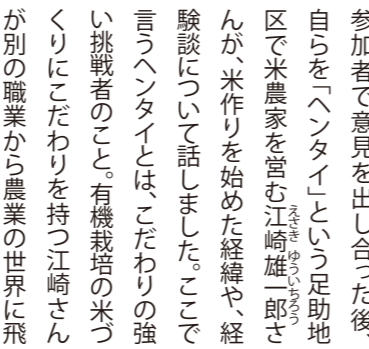


参加者からはメカナーについてどう思うかという質問もあった

分科会③「地域のエネルギーは自分たちでツクル」

「地域のエネルギーは自分たちでツクル」

日本は2060年までに8600万人まで人口が減るといふ予測があります。縮小していく社会で、新しい技術を手早く使いながら、自然のチカラを生かす暮らすことが、幸福感につながるのではないかと。ゲストの話聞き、おいでん・さんそんセンターが目指す未来が、もうそこまで来ているのを感じました。(木浦幸加)



米農家の江崎雄一郎氏(左)

REPORT

Man to Man(株)が山村部の人材を採用し、テレワークを開始!

山村部在住の子育て中の女性が、暮らしに合わせて働ける場

東海エリアを中心に全国で人材サービス業をおこなうMan to Man(株)(本社名古屋)が2月19日(火)、「つくラッセル」(旭地区)のコワーキングスペースで、地元人材を新規に採用したテレワークの運用をスタートさせました。テレワークとは、情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことです。

今まで社員が従事していた職業紹介業務の一部を切り出し、旭と稲武在住の子育て中等の女性を4名パートタイム雇用しました。同社は、おいでん・さんそんセンターの仲介により、2015年から耕作放棄地を活用した社員研修事業「Man to Man 元気ファーム」を、農事組合法人伊熊宮農クラブ(旭地区)の指導の下で展開しており、地域交流や相互理解を深めてきました。

眠っている地域人材を生かす方法について、同社から相談を受け、おいでん・さんそんセンターとつくラッセルが連携して、テレワークのスタートに至りました。勤務内容は、就職サイトに登録する求職者にスカウトメールを送る仕事。1日8時間、週5日分の業務を4名でシェアします。業務進捗や出退勤の確認は、名古屋オフィスの社

員とEメールやSNS等で連絡し合います。

つくラッセルは、多様な人材が活躍できる場を創出しようと、2012年に廃校となった「築羽小学校」を活用し、2018年4月にオープン。一部教室は、総務省「ふるさとテレワーク推進事業」でオフィス環境やITインフラを整備し、シェアオフィスやコワーキングスペースを開設しました。これまで大学の研究機関や個人事業主の利用は進んでいましたが、都市部企業が本格的にテレワークを導入したのは初めてです。

同社、人材紹介推進部の嵯峨秀勝部長は、「個人情報扱う仕事なので誰でも良いという訳ではありませんでした。地域の方とは、元気ファームで関係ができていたので安心して話を進められました。まだ模索中ですが、まずはこの取組みを軌道に乗せていきたい」と話します。

今回の取組がきっかけになり、山村部での多様な働き方や、都市部企業との連携が一層広がっていくことを期待したいです。(坂部友隆)



オムニバストークコーディネーター 豊森なりわい塾 塾長 滋澤寿一(しづさわじゅいち)氏



岐阜県森林文化アカデミー 准教授 久津輪雅(くつたまさし)氏



(一社)馬搬振興会 代表理事 岩間敬(いわまたかし)氏



(株)sonraku 代表取締役 井筒耕平(いづつこうへい)氏



猟師・ジビエカフェMui 清水潤子(しみずじゅんこ)氏

「地域資源、合意形成、地域、定住、の全てにこだわらないのが西栗倉村の起業の特徴です。やりたいうことをやればよいという雰囲気や、結果子どもが育つV字回復したりしています」。井筒さん自身も2012

岡山県の西栗倉村に所在を置く(株)sonraku代表取締役の井筒耕平さんはローカルベンチャーとエネルギーについて話しました。西栗倉村は人口1500人弱にも関わらず、2006年から13年で33社が起業しています。

「馬のエネルギー源は草です。草は太陽の光で生きてきます。石油など遠くから来るエネルギーから、すぐ目の前で構造がわかるエネルギーに変えていけるといいなと思う」と話す岩間さん。4月には、奮力の可能性について国際連合で講演をすることが決まっています。「動物を使うことに意気込んでいます。」

「馬のエネルギー源は草です。草は太陽の光で生きてきます。石油など遠くから来るエネルギーから、すぐ目の前で構造がわかるエネルギーに変えていけるといいなと思う」と話す岩間さん。4月には、奮力の可能性について国際連合で講演をすることが決まっています。「動物を使うことに意気込んでいます。」

馬搬の他にも馬で草刈り機を引いたり、観光用のスノーチューブを引いたり、子どもたちと馬を綱引きさせたり、シンブルに馬の力を感じてもらったり活動をしています。

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」

「猪で約6000万円、鹿で700万円の農業被害が出ています。その一方で、有害鳥獣駆除されているものの9割が、食べられるのに埋められている。高齢化が進む地域で、農業を継続していくためにも、命を食肉としていただくためにも、もっと皆さんに興味を持ってもらい、若い人が狩猟をやっていかねればなりません。」



「家畜は草を食べ、糞は堆肥になるから、非常に合理的」と岩間さんは話していた



削り馬という独特の道具にまたがって木工を体験する参加者

ものができるかとわかったしなどの感想がありました。

分科会②「馬・動物ともにある暮らし」